

PLS100 政治学概論

1年 3,4クォーター

担当教員 横井 正信

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 月曜日・3時限

授業概要

日本国憲法の下での国会と内閣は、議院内閣制の典型とされるイギリスや、大統領制と三権分立の徹底を基礎としたアメリカと比べて、期待される十分な機能を果たしていないと批判されてきた。しかし、実際には、統治機構の中で立法府と行政府が果たしている機能と役割にはそれぞれの国の歴史や文化を背景とした差異があり、立法府と行政府の関係も必ずしも同一ではない。

本講義においては、比較政治制度論的視点から、アメリカ型大統領制、イギリス型議院内閣制、ドイツ等の欧州大陸型議院内閣制等、主要先進諸国の立法府と行政府の機能と関係をめぐる様々な議論を紹介し、そのような議論の中で日本の立法府と行政府にどのような特徴と問題点があるとされてきたのかを、両者の関係に注目しつつ概説する。また、それを通じて、それぞれの国や地域の歴史及び政治文化を背景とした政治制度への理解を深めるとともに、現代日本の統治機構を取り巻く諸問題に関する幅広い知識と批判的かつ論理的思考力を養うことを目指す。

到達目標

- (1) 日本を含む先進諸国の統治機構の基本的な原理及び構造について学習し、実際の機能過程について考察する。
- (2) 現在の日本の統治機構の特徴と問題点を理解するための基本的知識を修得し、それらの特徴や問題点に対する自分自身の考え方をまとめる。

期待される効果

- (1) 異なった国や地域の政治制度の特徴と課題を多角的な視点から探求するための幅広い基礎的・専門的知識及び能力を獲得できる。
- (2) 政治学の基本的分析枠組を学習し、政治的現象への理解を深めることができる。
- (3) 現代日本の議会・行政・政党政治を取り巻く諸問題に関する幅広い知識と批判的かつ論理的思考力を養うことができる。

先修科目

国際地域概論

教科書・参考資料等

- (1) 大山礼子「日本の国会」岩波書店、2011年
- (2) 飯尾潤「日本の統治構造」中公公論新社、2007年
- (3) 川人貞史「議院内閣制」東京大学出版会、2015年
- (4) 増山 幹高「立法と権力分立」東京大学出版会、2015年
- (5) 福元健太郎「日本の国会政治」東京大学出版会、2000年
- (6) 川人 貞史「日本の国会制度と政党政治」東京大学出版会、2005年
- (7) 伊藤光利編「政治過程論」有斐閣、2000年
- (8) 山口二郎「内閣制度」東京大学出版会、2007年
- (9) 待鳥聡史「首相政治の制度分析」千倉書房、2012年
- (10) T. ポグントケ/P. ウェブ「民主政治はなぜ『大統領制化』するのか」ミネルヴァ書房、2014年
- (11) 今村浩「巨大国家権力の分散と統合」東信堂、1997年
- (12) 小堀眞裕「ウエストミンスター・モデルの変容」法律文化社、2012年

授業の方法

この授業は講義形式で行う。講義は基本的に教科書に沿って進めるが、より幅広い問題も扱うため、その際には別途印刷資料等を配布する。参考書として記載している諸文献において取り上げられている諸問題についても解説するため、学生は教科書だけではなく、参考書も読了しておくことが望ましい。さらに、多角的な教材によって理解を深めるため、可能な範囲で授業に関連したビデオ教材等も併用する。

成績評価

成績評価は記述式の期末試験を中心に行うが、学生は、指示された場合には授業で学習した内容を1ページ程度のレスポンス・ペーパーにまとめ、次回授業の冒頭に提出する。また、授業のなかで、レスポンス・ペーパーについての質疑応答を行う。

成績

- 10% レスポンス・ペーパー
- 10% 授業中の質疑応答の状況
- 80% 期末試験

授業スケジュール

第1回：近代政治制度の諸原理をめぐる議論の歴史

欧州における市民革命期以降の国民主権を基礎とした政治制度に関する議論の歴史を概観する。

第2回：大衆民主主義化と議会主義批判の背景

19世紀後以降の欧米における選挙権の拡大と連動した議会制民主主義の発展と、それに伴う議会主義の変化に対する批判の背景について学習する。

第3回：第二次世界大戦前の議会主義批判

古典的議会主義理念と20世紀の議会主義の実態の乖離に対するカールシュミット等による批判とその意味について考える。

第4回：第二次世界大戦後の比較政治制度論の発展

近年の実証主義的な比較政治制度論の発展の歴史をたどる。

第5回：アメリカ型大統領制とイギリス型議院内閣制の比較

ネルソン・ポルズビー等、アメリカ型大統領制とイギリス型内閣制を対照的にとらえる考え方について学習する。

第6回：イギリス型議院内閣制と欧州大陸型議院内閣制の比較

イギリス型議院内閣制と欧州大陸型議院内閣制の相違点と日本の議院内閣制にとってのその意味について考える。

第7回：比較政治制度論的観点から見た大日本帝国憲法下の統治機構の特徴

プロイセン影響を受けて制定された大日本帝国憲法の下での統治機構の基本的特徴と、1930年代に至るまでのその変化をたどる。

第8回：占領統治と日本国憲法の制定が統治機構に及ぼした制度上の変化

アメリカによる占領統治と日本国憲法制定が戦前との断絶性と連続性という点において日本の統治機構に与えた影響について考える。

第9回：制度と実態から見た戦後初期の行政・立法機関の関係

1955年の自民党結党までの国会運営の実態、国会と内閣との関係、内閣における政治家と官僚の関係について学習する。

第10回：一党優位政党制の確立と内閣・議会政治に対する批判の概要①

自民党の長期政権化に伴う内閣の政治的主導力の低下と国会の「空洞化」に対する批判の内容について学習し、その意味について考える。

第11回：一党優位政党制の確立と内閣・議会政治に対する批判の概要②

自民党の長期政権化に伴う内閣の政治的主導力の低下と国会の「空洞化」に対する批判の内容について学習し、その意味について考える。

第12回：一党優位政党制の崩壊と議会・行政府改革の影響

1993年の政権交代以降の政党システムの変容が内閣の政策決定と国会審議の実態に及ぼした影響について学習する。

第13回：「国会審議の活性化」と「内閣機能の強化」へ向けての改革①

1990年代以降の国会法と内閣法の改正及び省庁再編を中心とした「国会審議の活性化」と「内閣機能の強化」のための諸改革の内容、そのような諸改革が必要と考えられた背景、それら諸改革の結果について検討する。

第14回：「国会審議の活性化」と「内閣機能の強化」へ向けての改革②

1990年代以降の国会法と内閣法の改正及び省庁再編を中心とした「国会審議の活性化」と「内閣機能の強化」のための諸改革の内容、そのような諸改革が必要と考えられた背景、それら諸改革の結果について検討する。

第15回：比較政治制度論的観点から見た現代日本の統治機構の特徴と授業全体のまとめ

比較政治制度論的観点から見た現在の日本の議院内閣制の制度と実際の機能の特徴及びそれに対する学生各自の評価を行う。

第16回：期末試験

事前・事後学習

授業前に教科書・参考書の中の授業で取り上げる箇所を熟読し、疑問点を整理して、授業時に教員に対して質問できるようにしておくこと。また、レスポンス・ペーパーの作成を指示された場合には、次回授業冒頭に提出できるように準備しておくこと。さらに、レスポンス・ペーパーの内容について教員から質問された場合に答えられるようにしておくこと。